

人口減少社会のデザイン

広井良典(京都大学こころの未来研究センター)

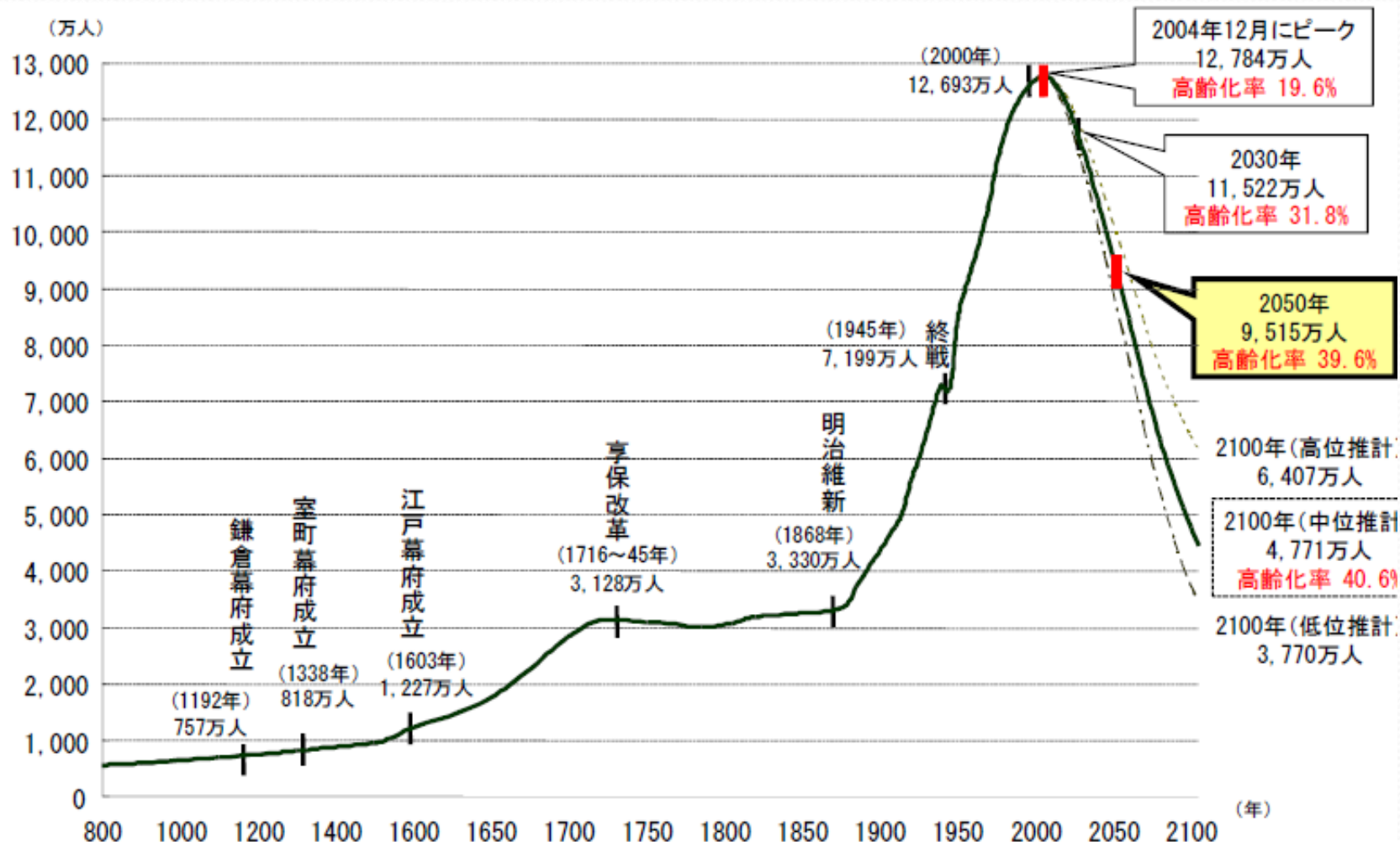
hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

全体の流れ

- はじめに：**人口減少社会**の到来
- 1. **AI**を活用した社会構想と政策提言
—2050年、日本は**持続可能**か？
- 2. **人類史**の中のポスト成長・人口減少社会
- 3. どのような**社会**を目指すのか
—「持続可能な福祉社会」の可能性
- おわりに：**グローバル定常型社会**の展望

はじめに：人口減少社会の到来

日本の総人口の長期的トレンド



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

人口減少社会の意味するもの

- 明治期以降の、すべてが「**拡大・成長**」を続ける時代からの根本的変容。
- “**集団で一本の坂道を登る時代**” からの意識・行動の変容。
- “**ヒト・モノ・カネ**すべてが**東京** (などの大都市圏) に向かって流れる時代” からの変容。
- 新たな「豊かさ」や幸福への模索。

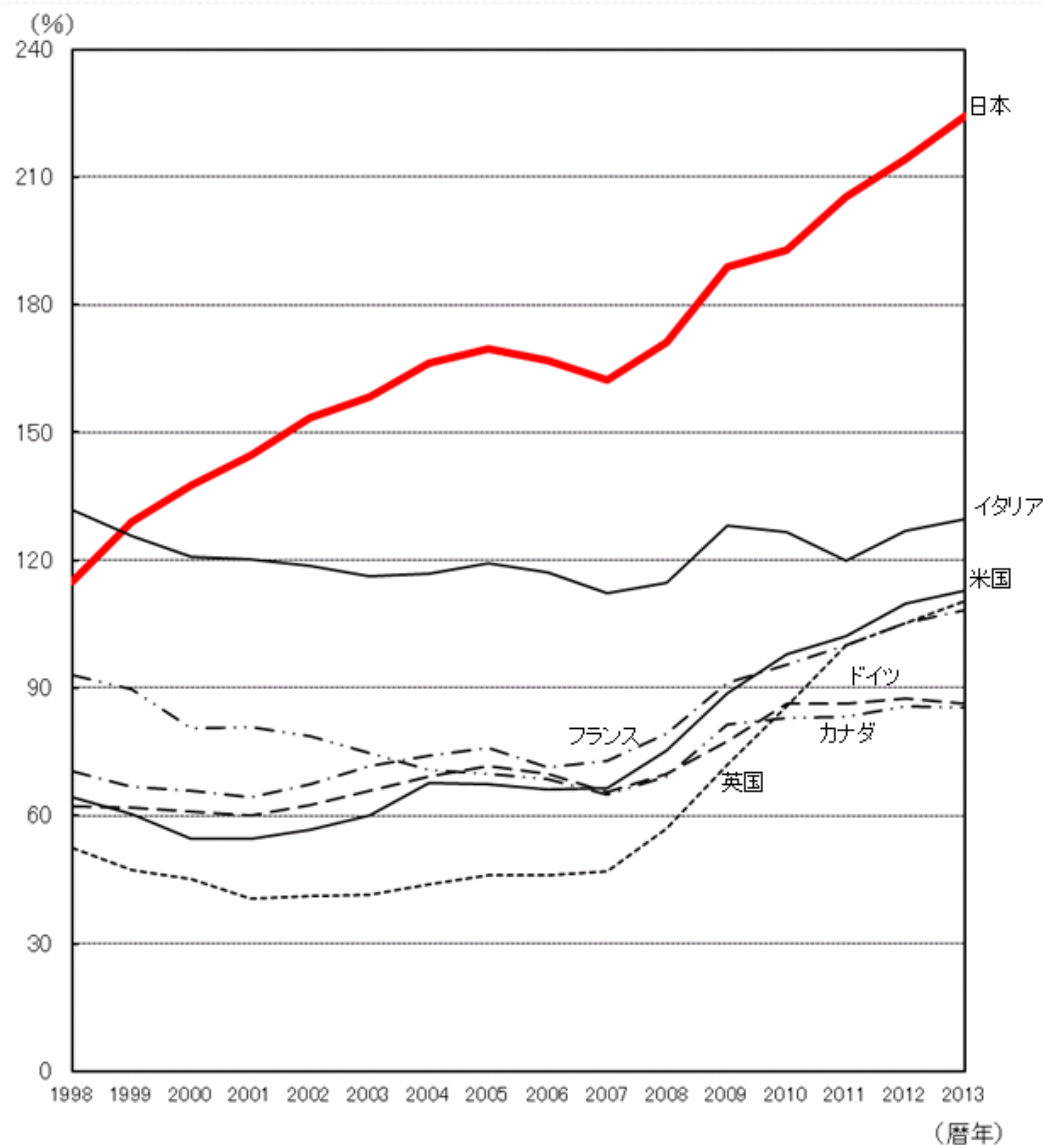
1. AIを活用した社会構想と政策提言 —2050年、日本は持続可能か？

日本社会の「持続可能性」を危うくしているものは？

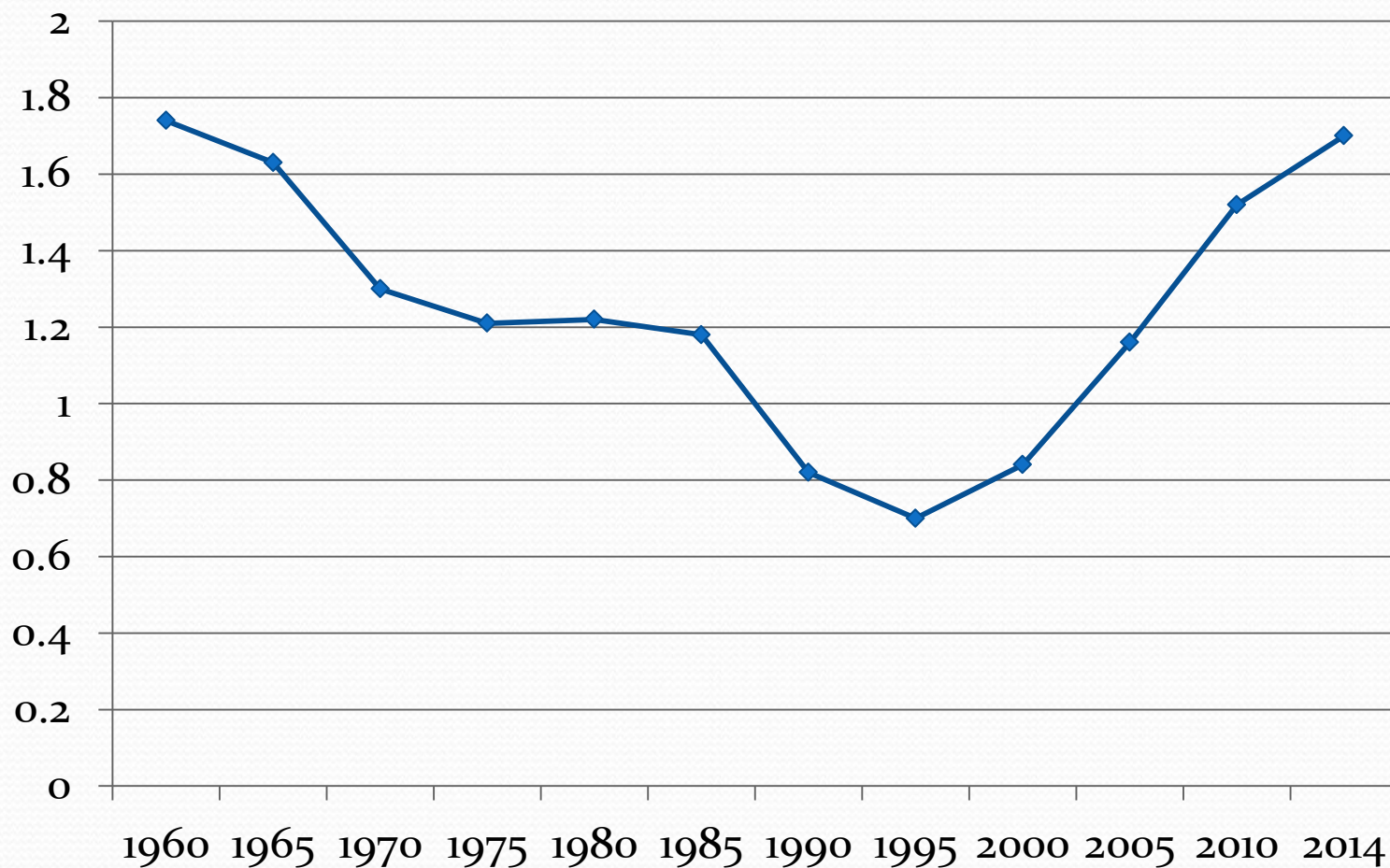
- 1) 債務残高の累積と将来世代への先送り
- 2) 貧困世帯割合の増加(90年代後半以降)と格差拡大
～若年世代の困窮や子ども・若者への支援[人生前半の
社会保障(含教育)の薄さ → 低出生率、少子化
- 3) 社会的孤立度の高さやコミュニティの希薄化

債務残高の国際比較(対GDP比)

・・・日本が突出



日本：生活保護を受けている者の割合 (保護率)の推移(%)

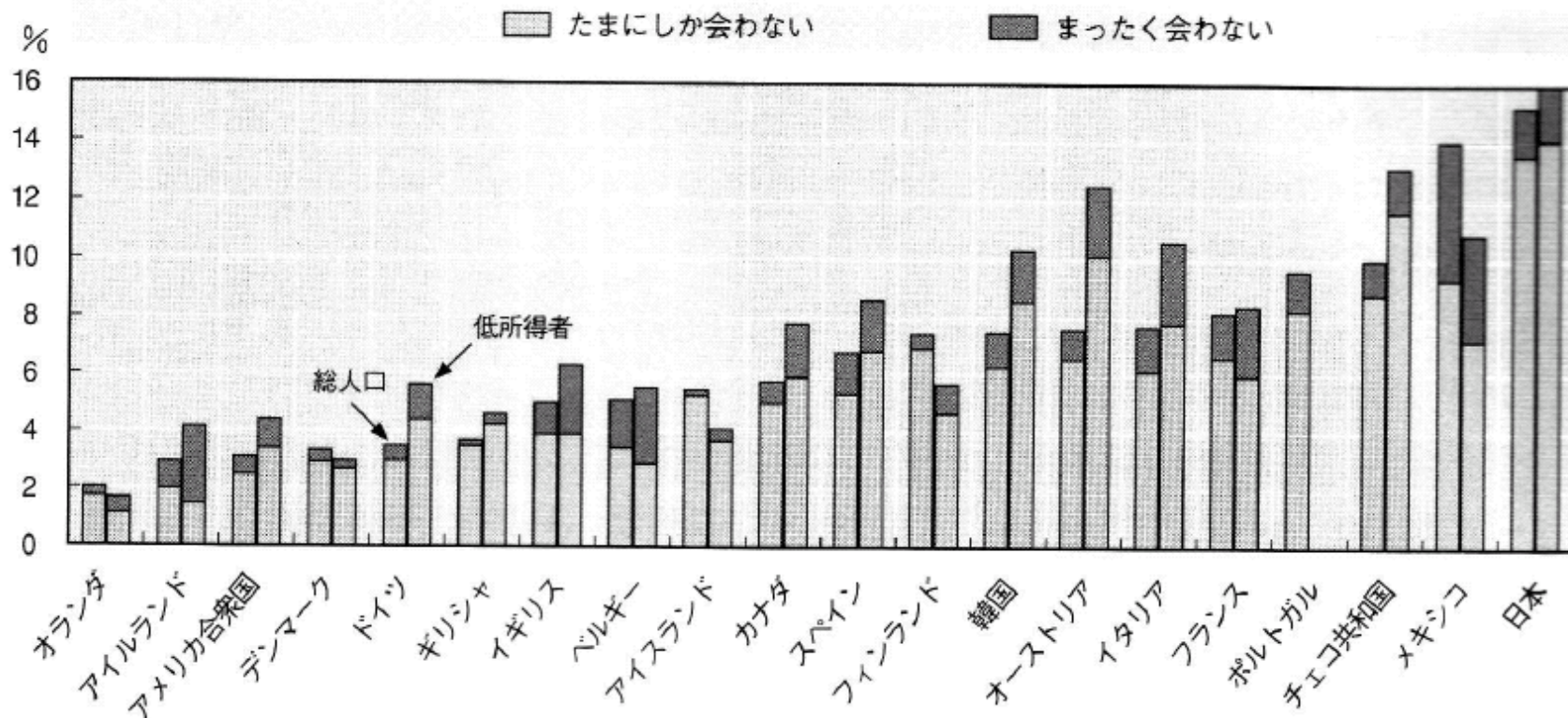


(出所)厚生労働省社会・援護局「被保護者調査」

先進諸国における社会的孤立の状況

…日本はもっとも高。個人がばらばらで孤立した状況

図1.3 OECD加盟国における社会的孤立の状況 2001年



注：この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3番目に位置するものである。

出典：World Values Survey, 2001.

2050年へのシナリオ とビジョン・政策選択

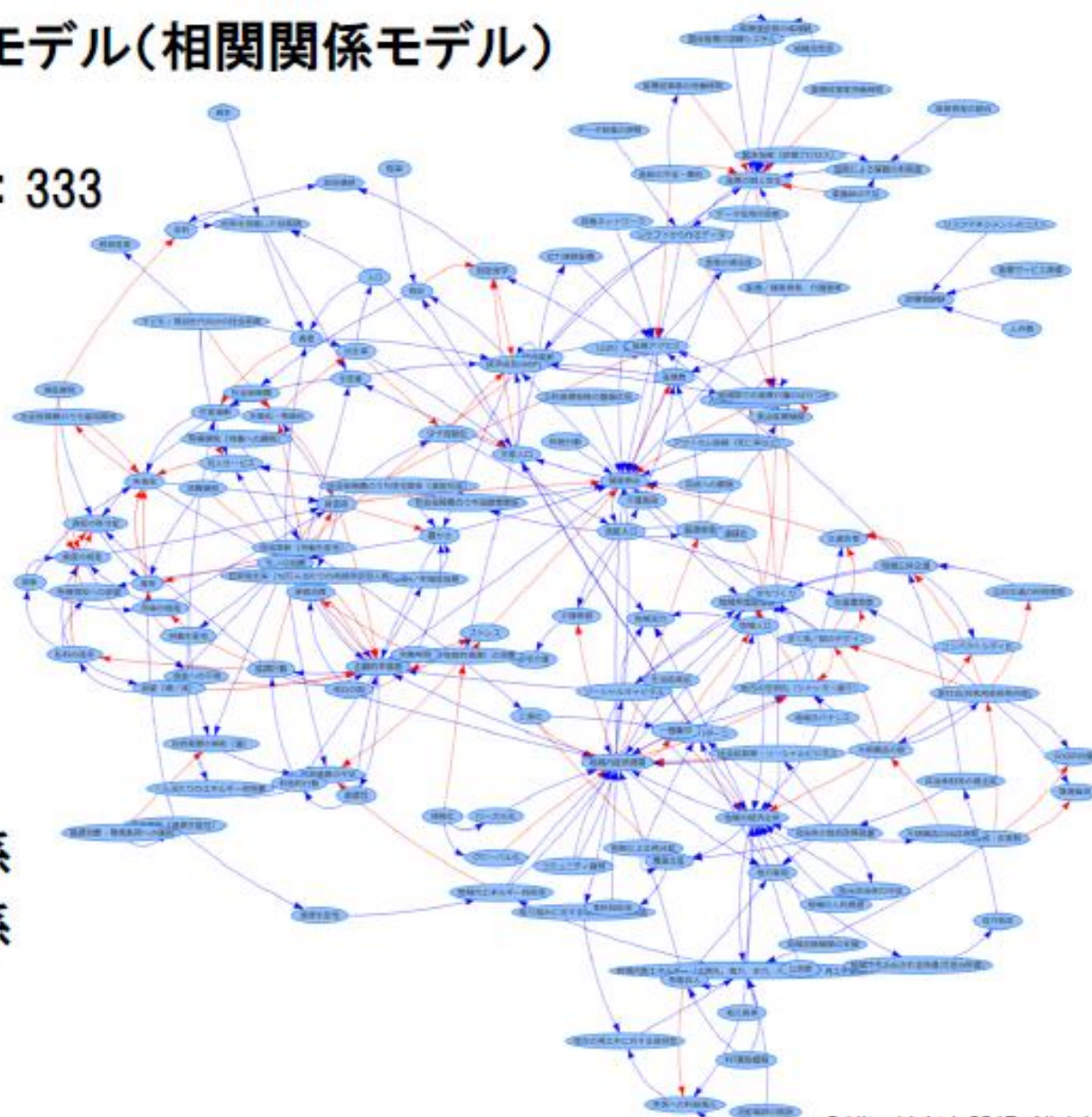
- A) 持続可能シナリオ
- B) 破局シナリオ・・・財政破綻、人口減少加速（←出生率低下←若者困窮）、格差・貧困拡大、失業率上昇（←AIによる代替等）、地方都市空洞化&シャッター通り、買物難民拡大（現在600～700万人）、農業空洞化

研究紹介: AIを活用した、持続可能な日本の未来に向けた政策提言

- 「日立京大ラボ(2016年6月開設)」での共同研究。2017年9月公表。
- 2050年の日本を視野に収めながら、①人口、②財政・社会保障、③地域、④環境・資源という4つの持続可能性及び雇用・格差・健康・幸福という4つの観点に注目し、日本が持続可能であるための条件やそのためにとられるべき政策を提言する内容。
- 149の社会要因の因果連関モデルを基に2万通りのシミュレーションを実施。
- 分析結果→日本社会の未来にとって、「都市集中型」か「地方分散型」かがもっとも大きな分岐点(8～10年後)。
- 人口・地域の持続可能性や格差、健康、幸福等の観点からは地方分散型が望ましい。

◆ 構築した定量モデル(相関関係モデル)

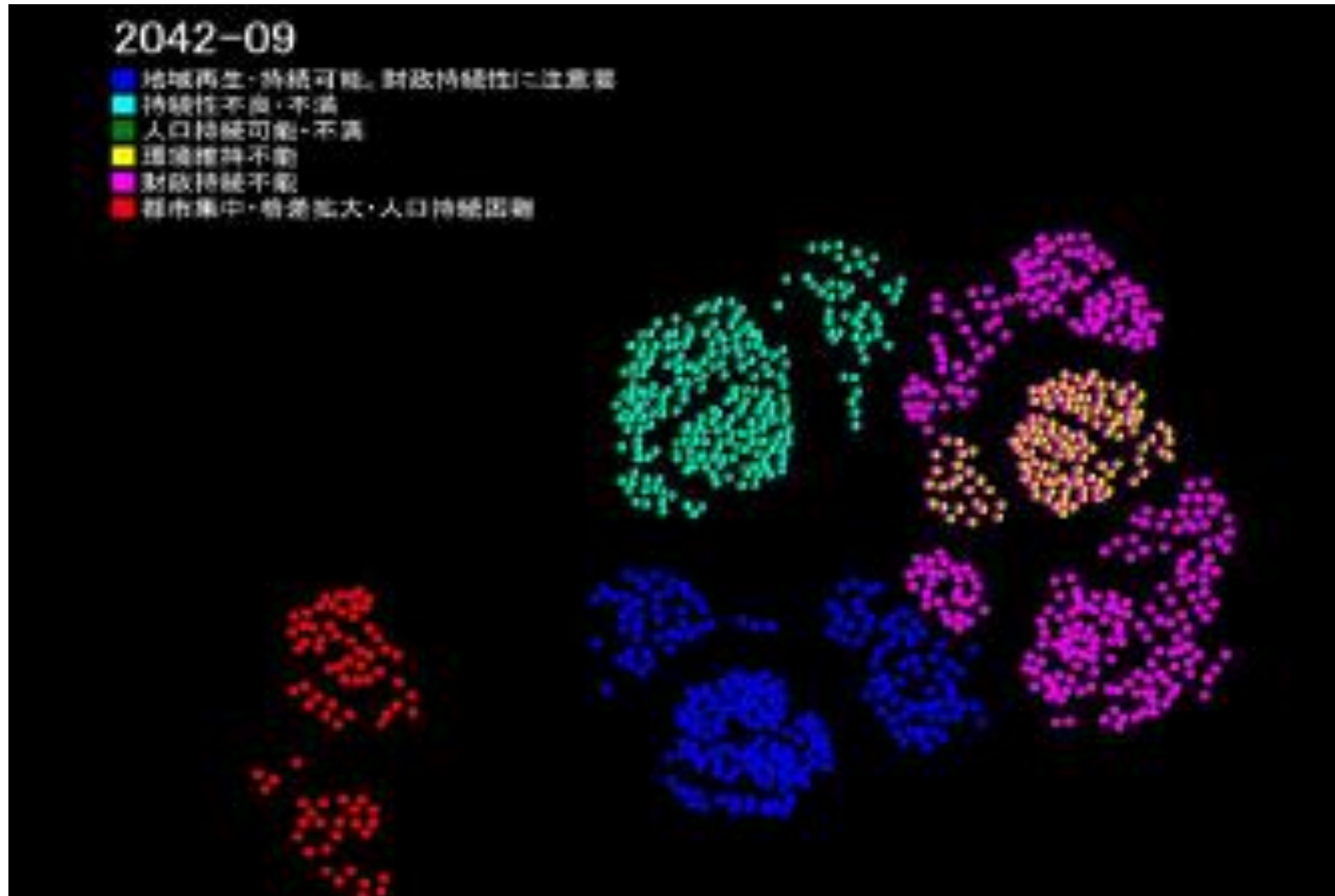
- ・指標数: 149
- ・相関(矢印)の数: 333



青線: 正の因果関係

赤線: 負の因果関係

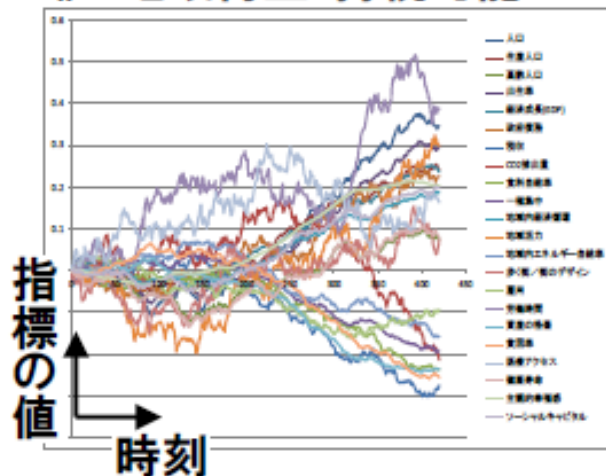
日本の未来の分岐シミュレーション (イメージ)[2042年のもの]



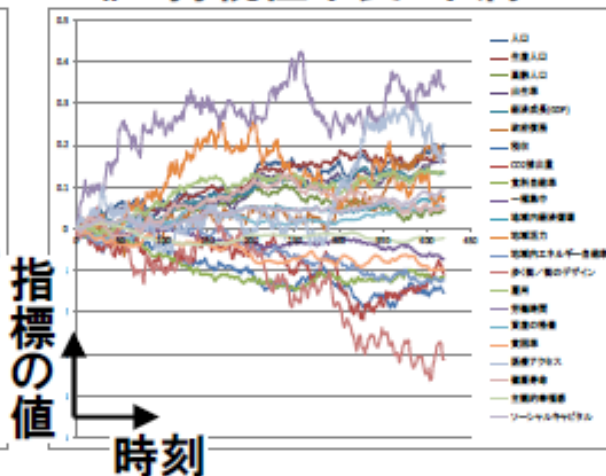
(注) 赤のグループが「都市集中型」シナリオで、他が「地方分散型」シナリオ

◆ 各グループの代表的なシナリオ例

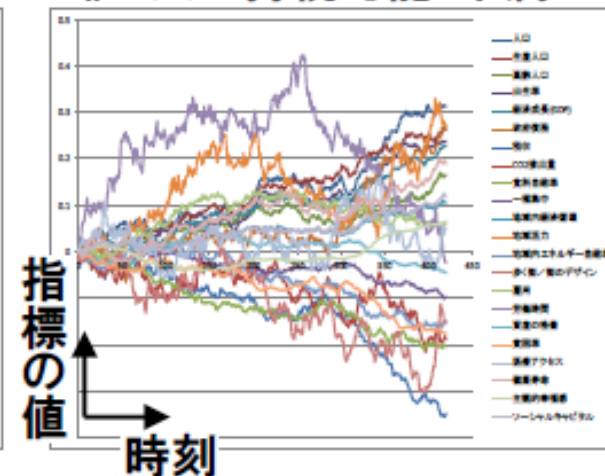
#1 地域再生・持続可能



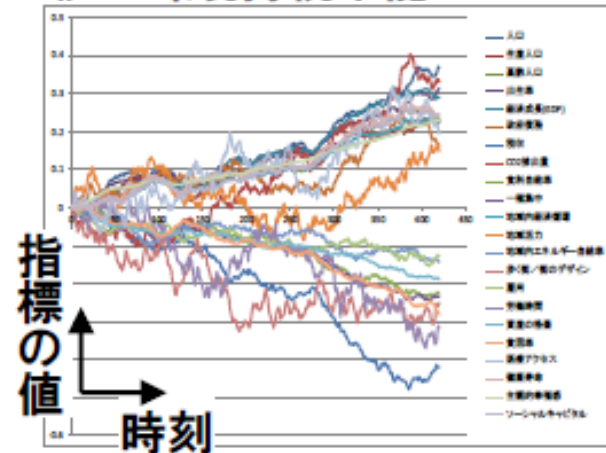
#5 持続性不良・不満



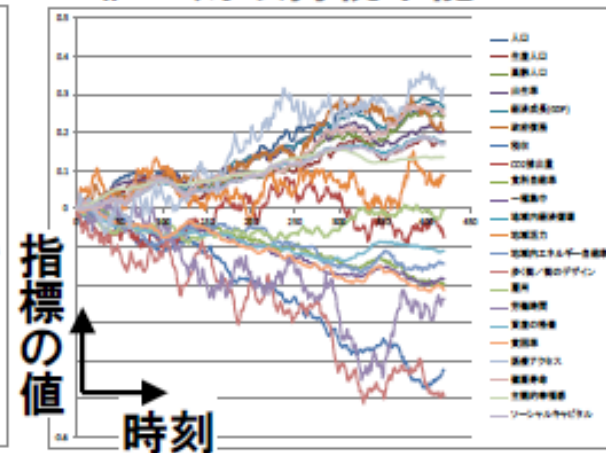
#8 人口持続可能・不満



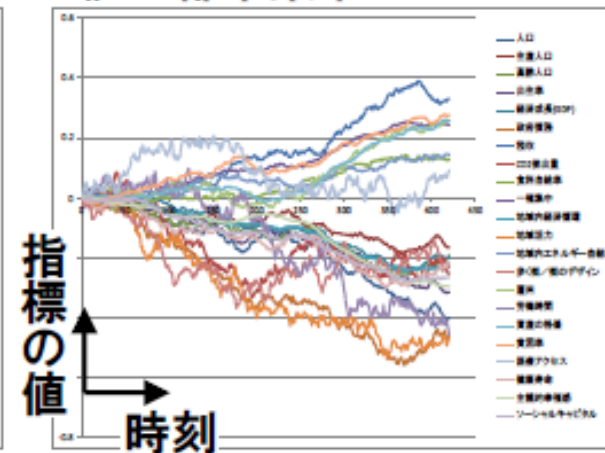
#12 環境持続不能



#16 財政持続不能



#21 都市集中



AIによる分析を踏まえた政策提言（1）

2050年に向けた未来シナリオとして主に都市集中型と地方分散型のグループがある。

a) 都市集中シナリオ

主に都市の企業が主導する技術革新によって、人口の都市への一極集中が進行し、地方は衰退する。出生率の低下と格差の拡大がさらに進行し、個人の健康寿命や幸福感は低下する一方で、政府支出の都市への集中によって政府の財政は持ち直す。

b) 地方分散シナリオ

地方へ人口分散が起こり、出生率が持ち直して格差が縮小し、個人の健康寿命や幸福感も増大する。ただし、地方分散シナリオは、政府の財政あるいは環境（CO₂排出量など）を悪化させる可能性を含むため、このシナリオを持続可能なものとするには、細心の注意が必要となる。

AIによる分析を踏まえた政策提言（2）

8～10年後までに都市集中型か地方分散型かを選択して必要な政策を実行すべきである。

今から8～10年程度後に、都市集中シナリオと地方分散シナリオとの**分岐**が発生し、以降は両シナリオが再び交わることはない。

持続可能性の観点からより望ましいと考えられる**地方分散シナリオ**への分岐を実現するには、労働生産性から資源生産性への転換を促す**環境課税**、地域経済を促す**再生可能エネルギー**の活性化、まちづくりのための地域**公共交通**機関の充実、**地域コミュニティ**を支える**文化や倫理**の伝承、住民・地域社会の**資産**形成を促す**社会保障**などの政策が有効である。

京大・日立と連携して研究へ

人口減少対策など想定

と、連携の詳細は今後詰めるが、リニア開業が地域にもたらす経済などへの影響や、人口減少対策の効果の予測といった活用を想定している。

県はこれまで、電算システムによる業務自動化などへの活用にもあいち県としても大、日立側には、研究の一助

AI技術活用を模索してきた。京大、日立側には提言の内容やAI技術を、政策を議論の材料になればいい」としている。

際に展開する自治体で活用・検証したい意向があり、「互いの利益が一致した」（県総合政策課）ため、連携方針を決めたという。

A-1の予測技術は、将来起こる可能性を偏りなく多面的

に分析でき、必要な政策を行うタイミングを探る参考にも

18年度、実証研究実施へ

陳対策、医療体制のあり
測と政策提
方、リニア中央幹線開
定だ。
通の影響と対策など様々
な課題の中から適切なも
のを選択する。長野県を
フィールドにして将来予
るの未来研

まで行った
求の研究を
を提言する
都大二三
センタ教
治体とAI活用で実現する
のは初めてで、今回の
研究により技術・経験の
蓄積し、他地域への展開
につなげていく。
一方、政策形成とは別
として、RPAをAIと組み合
わせることで、受領した
書類を画像化したものを
AIの認識でテキスト
ト化し、データ処理と読

京大・日立と連携
型業務自動化も

18年赤字算案に300万円強を計上し、県議会の同意を経て始める。AIによる政策形成には、京大と日立が16年に京大に設けた「日立未来課題探索共同研究部門（日立京大ラボ）」と県が連携して進める。テーマは未定だが、過

日立京大ラボによる「日本の持続可能性」
分岐のイメージ

分岐点A 分岐点B 地方分散 (持続可能) 確率60% 確率50% 地方分散 (持続不能) 確率40% 確率50% 都市集中 対策の実施 時刻

複雑な未来予測に強み

日 立 京 大 ラ ボ
 広井敦哉と三上京大、通りの本三ナリオと名
 づけた。1950年、2
 30年日本の特許司
 能性の確立を、マ
 AIを使った政策提議
 AIを促した。少子化環境
 破壊など49件に達し、集中シナリオと地方分散
 要因の因国保三ナ
 構念の1950年18
 52年の50年間で約2方
 ナリオと名づけた。通
 23のナリオと名づ
 して有識者解釈とし
 の重要な設点を書いた
 まは、80年後に都市
 集中シナリオと地方分散
 シナリオと地方分散
 170年と地方分散
 ナリオと名づけた。通
 23のナリオと名づ
 して有識者解釈とし
 の重要な設点を書いた
 まは、80年後に都市
 集中シナリオと地方分散
 シナリオと地方分散
 170年と地方分散
 ナリオと名づけた。通

日本の持続可能性を検証

同市大のシナリオは、分散型と集中型を比較するところから、

分散要因を解析すると、地方分散シナリオへの誘導には環境課題や地域の公共交通機関の充実などが重要で、地方分散の持続可能シナリオへの誘導には地方税収、エネルギー自給率、雇用など地域内経済の循環を高める政策が必要と指摘した。

岡山県真庭市…“里山資本主義”～SDGs未来都市

・本年6月、29都市（SDGs未来都市）と10事業（自治体SDGsモデル事業）が選定。真庭市はいずれにも採択された。



真庭市が永続的に繁栄するためには、人口減少対策は欠かせません。地域資源を観光などに生かす「観光地域づくり」などにより魅力あるまちづくりが必要です。



行ってみたくなる
住んでみたくなる
まちづくり

真庭市は、旭川沿いのサイクリングルートの整備や自転車を活用した健康づくりなど、自転車を活かしづくりに取り組んでいます。バイオマス資源などを排出しない自転車活用するまちづくりは、健康と環境と観光の融合といえます。また、（社）真庭観光局などが心となって行っているバイオマスアースは、地域に住む人が案内する地域産業観光であり、今後も拡が期待される外国人観光客への対応としても、魅力のあるコンテンツともなりうる可能性があります。持続可能なまちづくりのため、これからも地域に根ざった観光などに活用し、真庭市の魅力をき出し「行ってみたくなる住んでみたくなるまちづくり」を進めたいと考えています。



未利用木材などの「木質バイオマス資源」を活用して再生可能なエネルギーを生み出すことにより、真庭バイオマス発電所などで新たに50人以上の雇用が生まれるなど大きな効果が表れています。



「グローバル化」の**先**の世界：

二つの道の岐路、“せめぎ合い”の時代

- トランプ現象に見られるような、強い「**拡大・成長**」志向と一体となった**ナショナリズム** & 排外主義
- **ローカル**な経済循環や共生から出発し、「**持続可能な福祉社会**」を志向するような方向

2. 人類史の中のポスト成長・ 人口減少社会

世界人口の超長期推移 (ディーヴェイの仮説的図式)

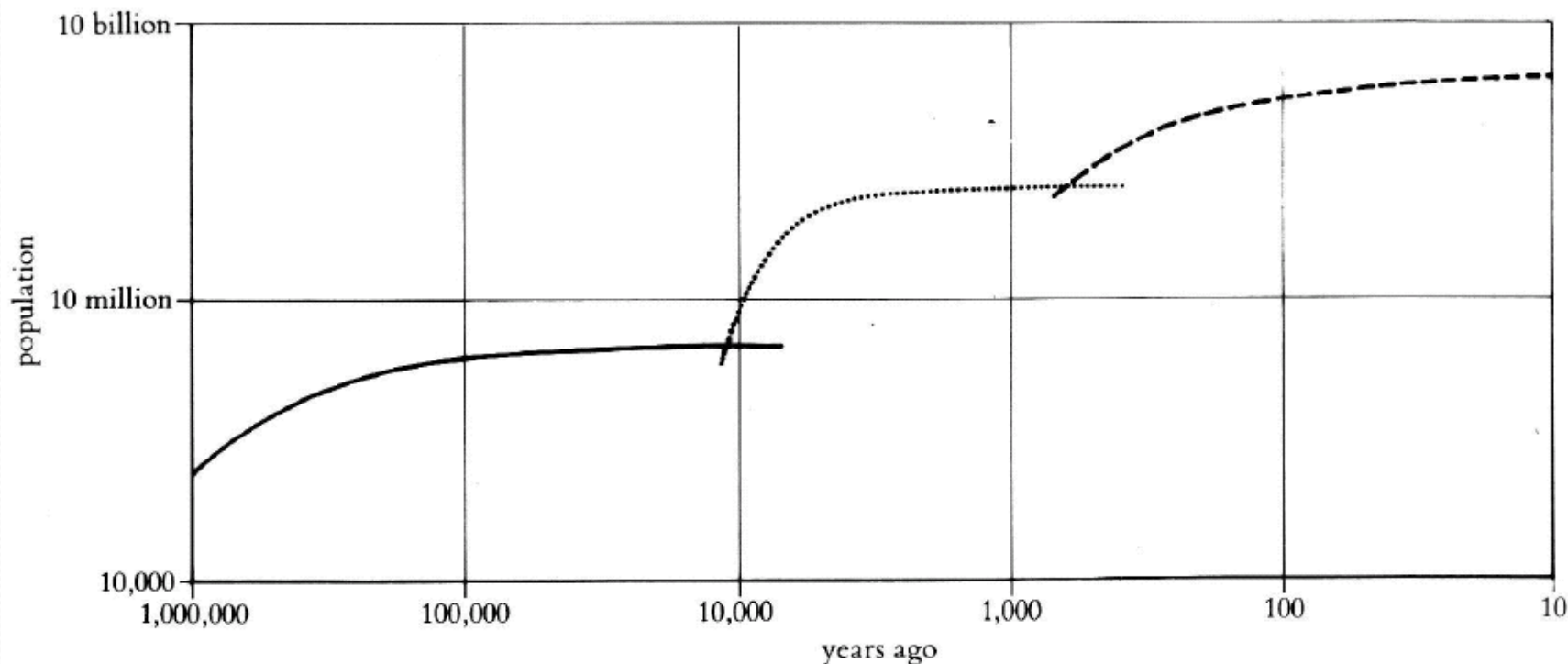


FIGURE 5.13 Deevey's schema of world population history for the last million years, with the number of years before the present and population size both plotted on logarithmic scales. SOURCE: Deevey (1960, p. 198)

人類史における「拡大・成長」と定常化

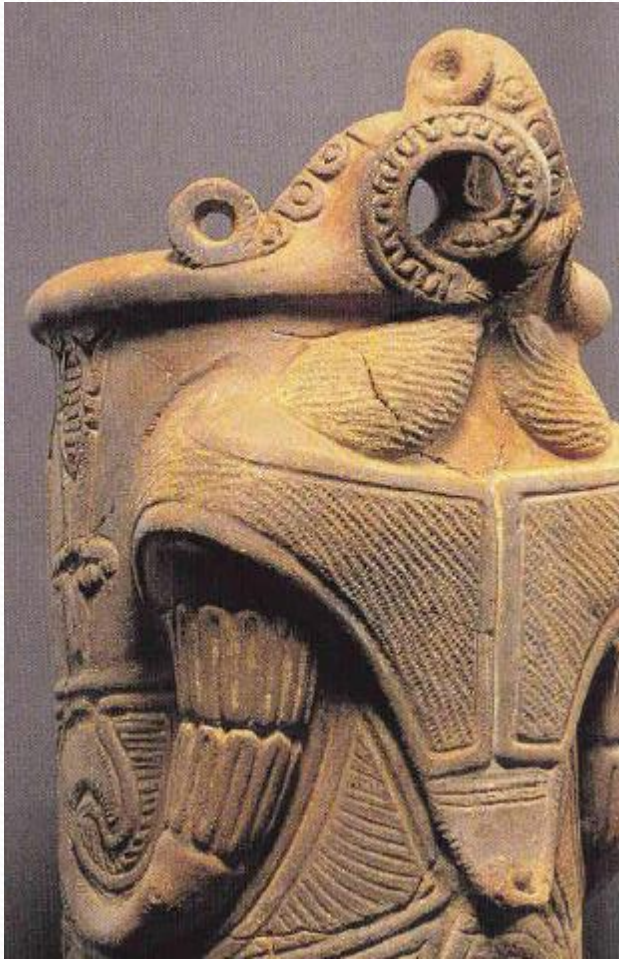
- 3つのサイクル：

①狩猟・採集－②農耕－③工業化（産業化）

- 背景としてのエネルギー利用または「自然の搾取」の高度化

「心のビッグバン」のイメージ

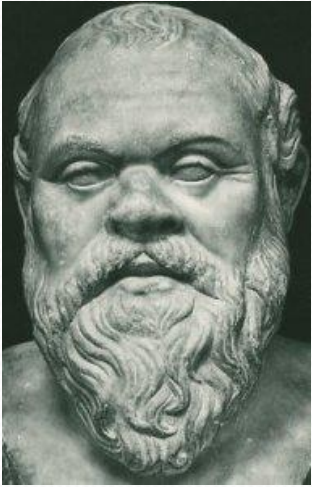
ハヶ岳南麓から発掘された縄文土器遺跡群（井戸尻考古館パンフレットより）



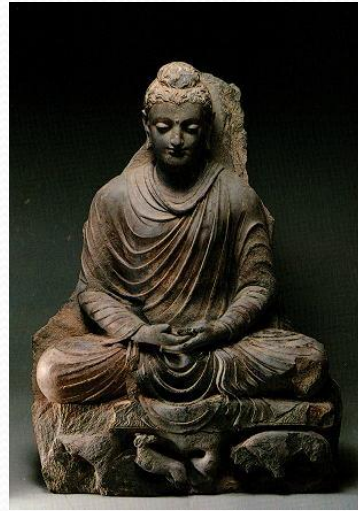
物質的生産の量的拡大(実用性)→**文化と創造性**

・・・狩猟採集段階における「定常期」への移行と重なるのでは？

枢軸時代(精神革命):紀元前5世紀前後



ソクラテス



ブッダ



孔子



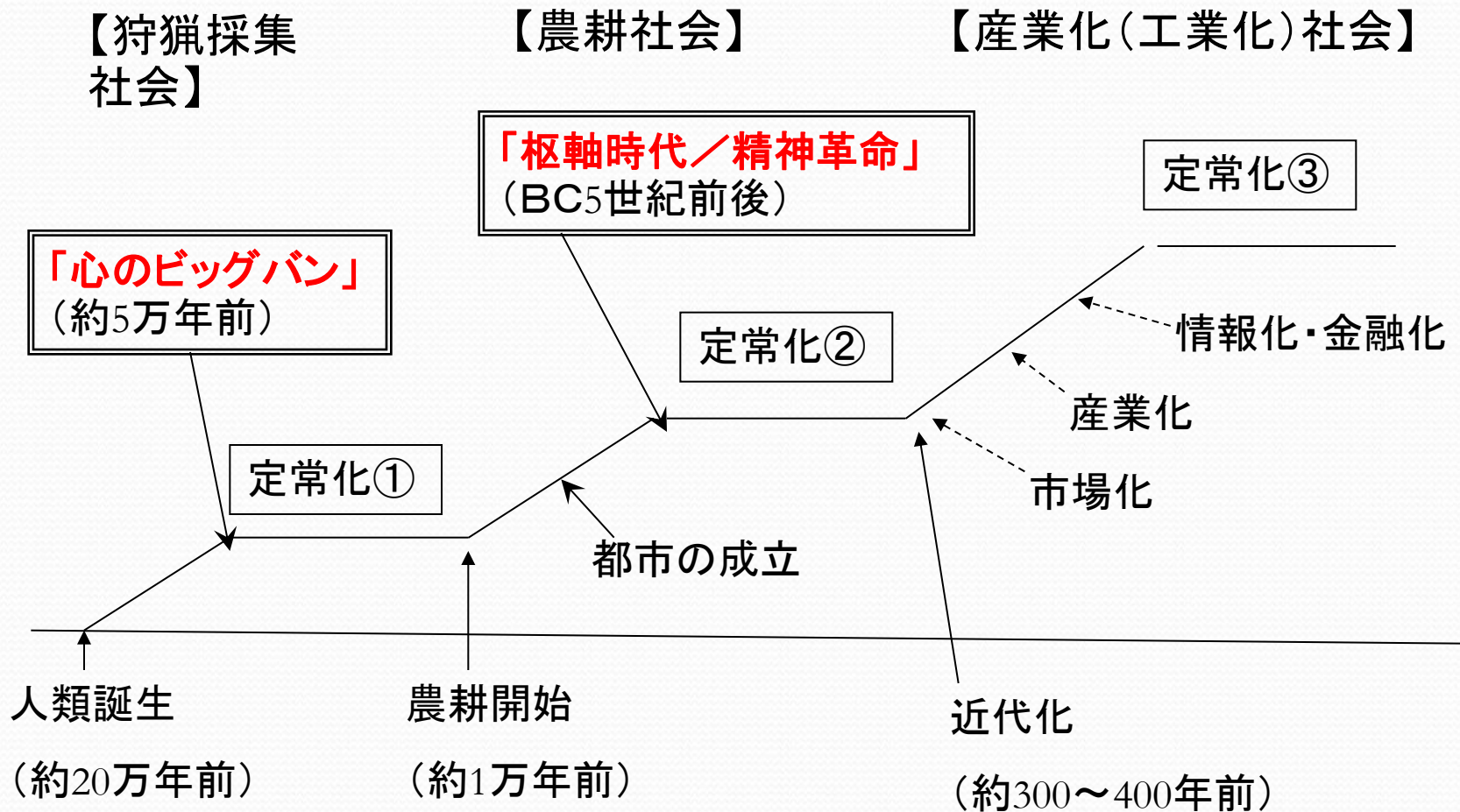
旧約思想

- この時代、地球上の各地において**普遍的な原理を志向する思想**が**”同時多発的“**に生成。

- ・ギリシャ: ギリシャ哲学 “たましいの配慮”
- ・インド: 仏教 “慈悲、涅槃”
- ・中国: 儒教や老荘思想 “仁、徳”
- ・中東: 旧約思想～キリスト教 “愛、永遠の生命”

人類史における 拡大・成長と定常化のサイクル

人口・経済の規模
↑



【自然信仰】

【普遍宗教】

【地球倫理？】

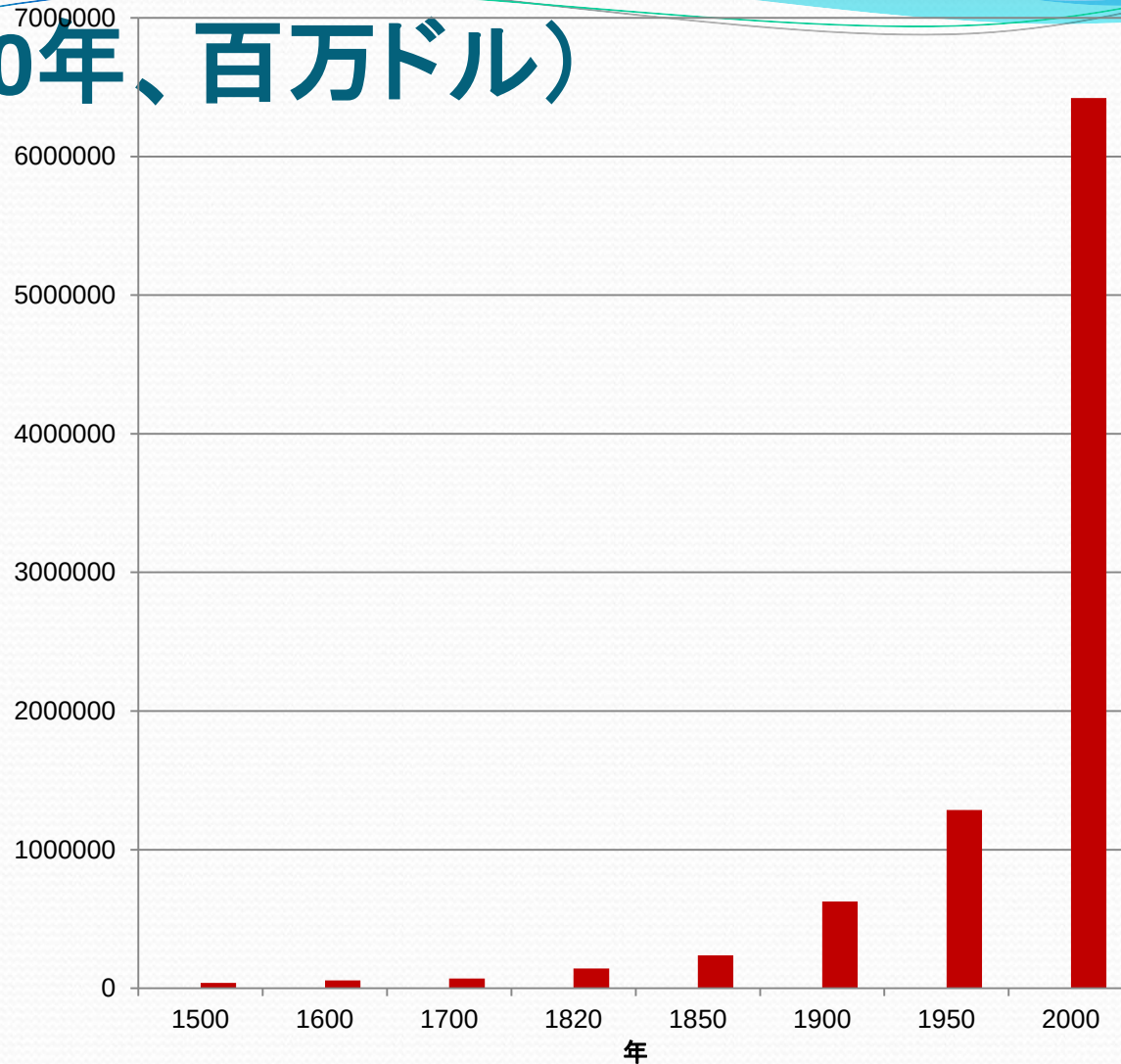
“文化的創造”の時代としての定常期

- **枢軸時代・精神革命**（紀元前5世紀前後）
- 背景・・・農耕文明の資源・環境的限界の顕在化？
←近年の**環境史** environmental historyの知見
- 「**心のビッグバン**（精神のビッグバン、文化のビッグバン）」も狩猟採集段階における同様の構造？
- 物質的生産の量的拡大から文化的・精神的発展へ。
&「**幸福**」の意味への問い



近代科学と資本主義

西ヨーロッパ諸国のGDPの推移(1500年 ー2000年、百万ドル)



(注1) 対象国はオーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリス。

(注2) ドルは1990年換算。

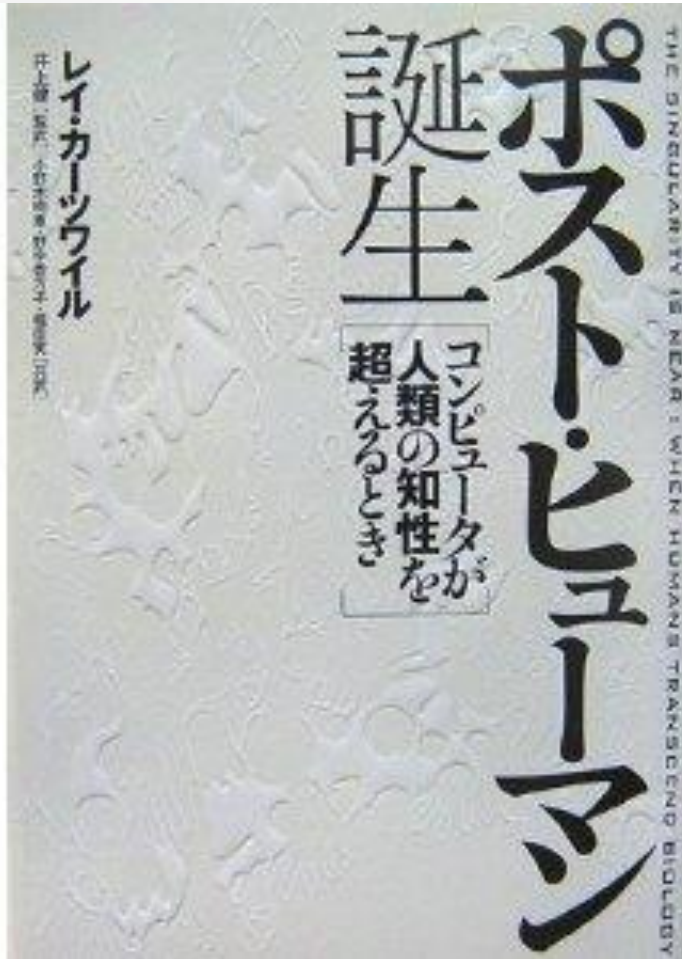
(出所) Angus Maddison, *The World Economy: Historical Statistics*, OECD, 2003より作成。

“長期停滞”論——リーマン・ショックから回復後も先進国の平均成長率は低〔1.6%（2011－15年）〕

先進国



第4の拡大・成長はあるか？



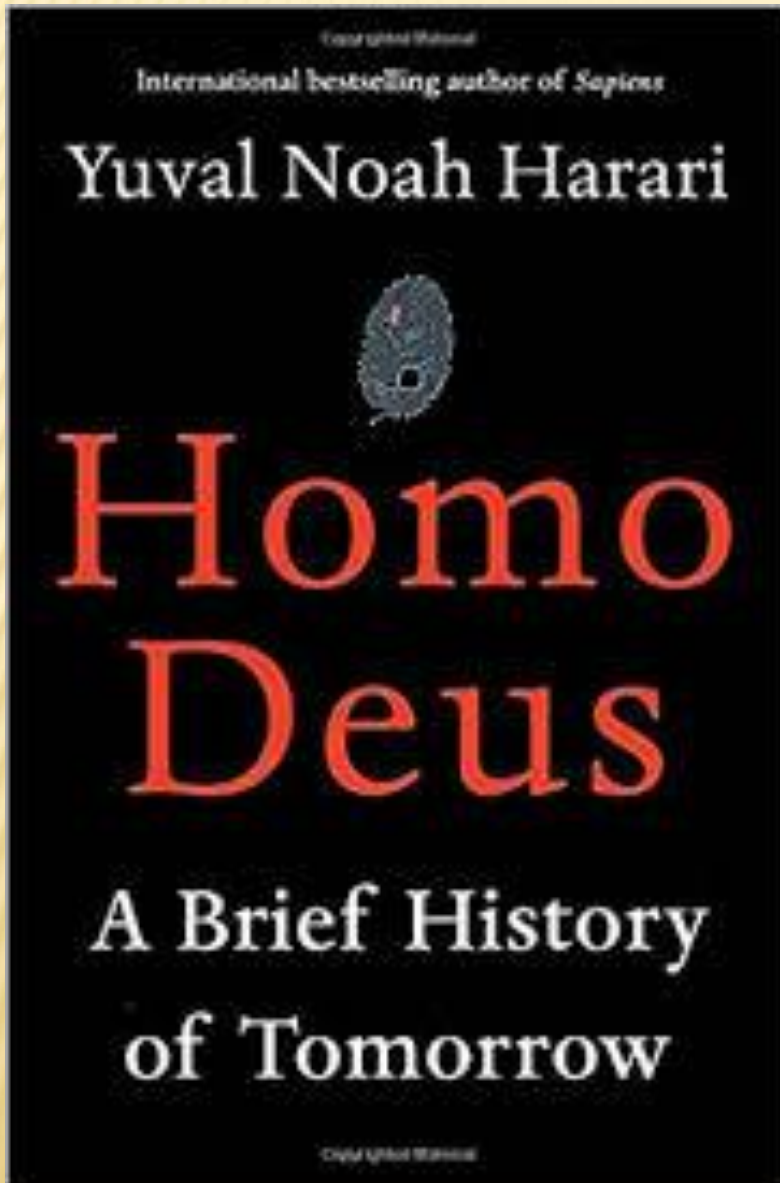
3つの可能性

- 1) 人工光合成・・・究極のエネルギー革命
 - 2) 地球脱出または宇宙進出
 - 3) シンギュラリティ～ポスト・ヒューマン（人間そのものの改造）
-
- これらは根本的な解決にならないのでは？
 - → 地球や人間の有限性を踏まえた上での、定常型の新たな「豊かさ」あるいは「持続可能な福祉社会」の構想

ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス—テクノロジーと人間の未来』の議論



- × 「20世紀の中国でも、中世のインドでも、古代のエジプトでも、人々は同じ3つの問題で頭がいっぱいだった。すなわち、**飢餓と疫病と戦争**で、これらが常に取り組むべきことのリストの上位を占めていた。」
- × 「飢饉と疫病と戦争はおそらく、この先何十年も厖大な数の犠牲者を出し続けることだろう。とはいえ、それらはもはや、無力な人類の理解と制御の及ばない**不可避の悲劇**ではない。」



- × 「人類は他に何を目指して努力するのか？・・・
前例のない水準の繁栄と健康と平和を確保した人類は、過去の記録や現在の価値観を考えると、次に不死と幸福と神性を標的とする可能性が高い。
・・・今度は人間を神にアップグレードし、ホモ・サピエンスをホモ・デウスに変えることを目指すだろう。」

現代版「不老不死」の夢： 二つの文脈

- 1) **脳神経科学・情報科学**の展開・・・意識の機械への移植、“人格のアップロード”、“biologyを超える”(カーツワイル)
- 2) **再生医療**をめぐる展開
・・・生命そのもののコントロール



なぜ人間は感じるのか？
科学者や哲学者を悩ませる
「意識の問題」とは？
人工的に意識は
作りだせるのか？

科学の
フロンティアは、
頭の中にある——

中公新書 2460 定価 本体520円(税別)

◆ 「もし、**人間の意識を機械に移植**できるとしたら、あなたはそれを選択するだろうか。**死の淵**に面していたとしたらどうだろう。たった一度の、儂く美しい命もわからなくはないが、私は期待と好奇心に抗えそうにない。機械に移植された私は、何を呼吸し、何を聴き、何を見るのだろうか。肉体をもっていた頃の遠い記憶に思いを馳せることはあるのだろうか。

未来のどこかの時点において、意識の移植が確立し、**機械の中で第二の人生**を送ることが可能になるのはほぼ間違いないと私は考えている。」（渡辺正峰『脳の意識、機械の意識——脳神経科学の挑戦』中公新書、2017年）

“意識の永続化”や「不老不死」は 人間を幸せにするのか？

100万回生きたねこ

佐野洋子 作・絵



「限りない拡大・成長」に代わる価値 と新たな科学・社会構想の必要性

- 「近代科学」と「資本主義」は“車の両輪”
 - * 科学革命・・・17世紀
 - * 東インド会社・・・1600年
- 両者の共通性
 - * 人間による自然のコントロール・支配・・・人間／自然の関係
 - * 要素還元主義と「個人」モデル・・・個／全体(社会)の関係

科学の新たな方向:「ケアとしての科学」

「サイエンス」と「ケア」の分裂から再融合へ

	科学(サイエンス)	ケ ア
人間－自然	対象との切断や 自然支配・制御	対象との相互作用 対象のもつ内発性
個－全体	帰納的な合理性・普遍性 ～要素還元主義	対象・出来事の個別性・一回性（ $\longleftrightarrow$ 再現可能性） 関係性・全体性への視点

「『無』の科学」は可能か？

- 「生」の限りない拡大のみを追求するのではなく、また「死」や「無」を排除してしまいうのではなく、「無」に正面から向き合い、その意味や価値を探究するような科学。あるいは有と無が分かれ出る、その生成の間際を究明するような科学。



- × 「「無」とは何か？ 多くの人は「何もないこと」と答えるだろう。「そんな退屈なものについて、何をいまさら論じることがあるのか」とさえ思うかもしれない。」
- × 「ところが、物理学にとっての「無」は、決して退屈なものではない。（中略）物理学の発展につれて、「無」はますます重要になりつつある。「無」が素粒子を生みだす。「無」がエネルギーをもっている。「無」が宇宙を誕生させる・・・。今や「無」と物理学は切っても切れない関係にある。「無」の不思議さ、奥深さを探究してみよう。」

『NEWTON「無」の物理学』より（続き）

- 世界は・・・「有」にあふれている。「有」は実ににぎやかで、魅力的だ。
- それにくらべて「無」はどうか。何もないこと、空虚、空っぽ。「有」とは対照的に、「無」とはいかにも退屈なもののように見える。
- しかし、物理学者はそうは考えない。「無」とは、実にダイナミックでエキサイティングなものだというのだ。「無のすべてを知る者は、すべてを知りつくす」（スタンフォード大学、レナード・サスカインド博士）ほどだという。もしこれが本当なら、現代物理学のえがく「無」の姿とは、いったいどのようなものなのだろう。

「無の科学」は可能か？（続き）

- 17世紀に生まれた**近代科学**もまた、その歩みの究極の展開において、「無」あるいは“有と無の根源にある何か”を正面から論じるに至っている。
- 「**意識の永続化**」や「**不老不死**」をめぐる現代的な展開、そして**超高齢化**時代の到来ということとも相まって、「無」や「死」、あるいは“有と無が分かれ出る根源”についての**文・理**を超えた、科学、人間、社会等の多領域に及ぶ横断的な探究が今求められている。

3. どのような社会を目指すのか ——「持続可能な福祉社会」 の可能性

目指すべき社会モデル

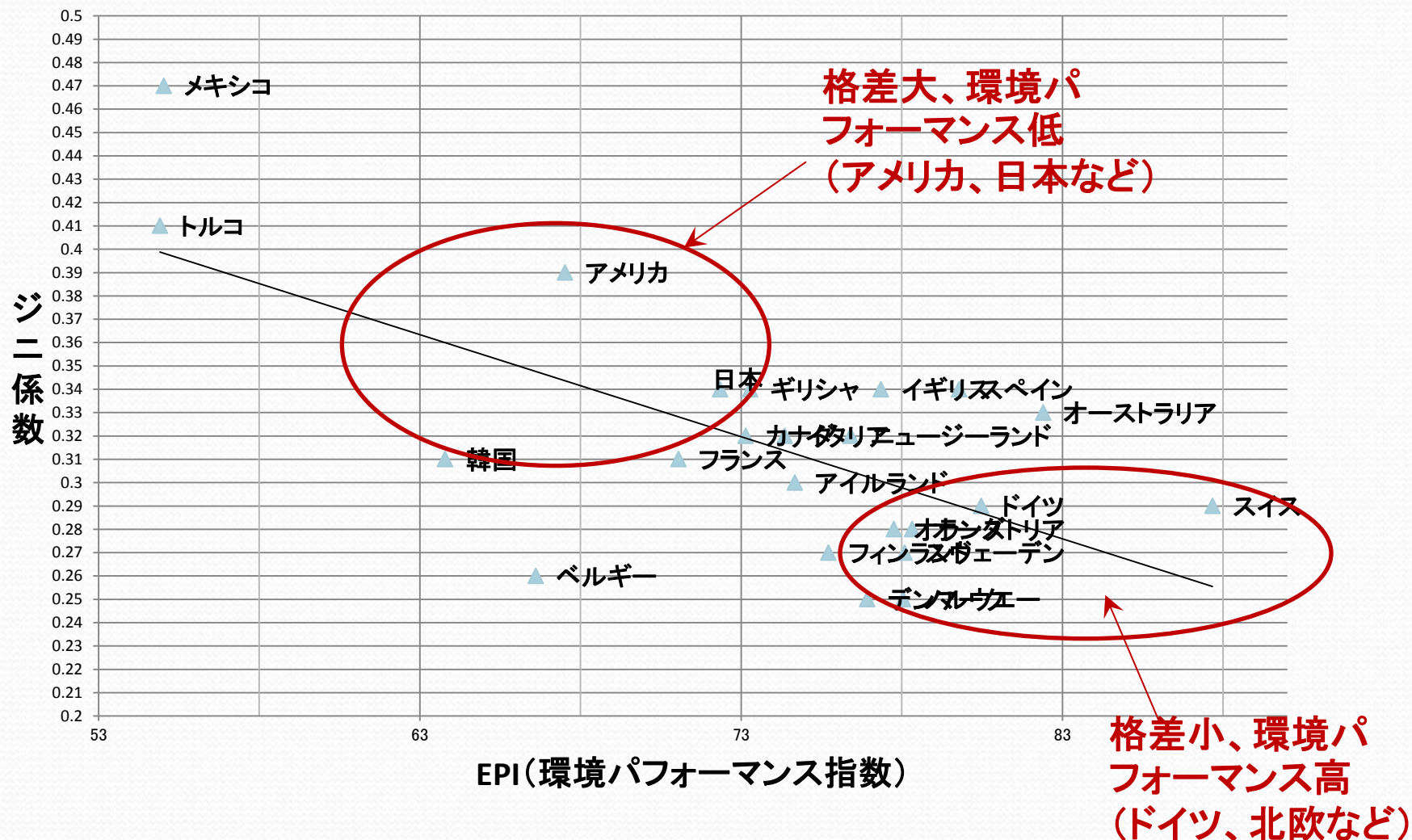
- 「**持続可能な福祉社会**sustainable welfare society」

* **環境**・・・富の**総量**の問題 **持続可能性**
* **福祉**・・・富の**分配**の問題 **平等、公正**

の両者の統合。

- **ローカル**な経済循環やコミュニティから出発し、様々な再分配や規制等を**ナショナル、グローバル**へと積み上げていくような社会のありよう。
- ・・・先述の「**AI**を活用した社会構想」のビジョンとも呼応

(参考)「持続可能な福祉社会(緑の福祉国家)」指標



(注)ジニ係数は主に2011年(OECDデータ)。EPIはイェール大学環境法・政策センター策定の環境総合指数。

(出所) 広井研究室作成。



「持続可能な福祉社会」 の具体的なイメージ①: 都市と地域・まちづくり

中心部からの自動車排除と「歩いて楽しめる街」 (エアランゲン[人口約10万人]) →街のにぎわいと活性化にも。



ハノーファー： インダストリー4.0（第4次産業革命）～“IoT”のメッカの一つ







“人間の顔をしたスマートシティ”



典型的な日本の地方都市

・・・道路中心の街と中心部の空洞化



香川県高松市：丸亀町商店街



・商店街と高齢者向け住宅等を一体的に整備し「福祉都市」的な性格をもつとともに、納税を含めヒト・モノ・カネが地域で循環する地域内経済循環を目指す。



視点と課題

- 日本の都市は、高度成長期を中心に圧倒的に「自動車中心」に作られてきた。 ← アメリカの都市をモデル
- “歩いて楽しめる街”は、本来は高齢化とは無関係に「都市」本来のあり方として実現されていくべきもの。
- しかし日本の場合は、高齢化への対応が社会全体の重要課題として認識される中、高齢化をチャンスとして“コミュニティ空間という視点を重視した、歩行者中心の街”を実現していくべき。



「持続可能な福祉社会」 の具体的イメージ②: エネルギーの自律分散的整備

岐阜県石徹白地区 (岐阜県郡上市白鳥町)の遠景



小水力発電〔上掛け水車型〕



「石徹白(いとしろ)地区は、白山信仰の拠点となる集落であり、小水力発電を見に来ていただく方には、必ず神社にお参りいただいています」

「自然エネルギーは、自然の力をお借りしてエネルギーを作り出すという考え方」であり、「地域で自然エネルギーに取り組むということは、地域の自治やコミュニティの力を取り戻すことであると、私どもは考えております」(NPO地域再生機構の副理事長、平野彰秀さんの言)

Silent Revolution

おだやかな革命



自然エネルギーによる地域再生。これからの時代の「豊かさ」を巡る物語。

(参考) 自然エネルギーと「永続地帯」

- 日本全体でのエネルギー自給率は4%程度に過ぎないが、**都道府県別に見ると10%を超えているところが21**(前年度は14)あり、ベスト5は以下のとおり(倉阪秀史千葉大学教授が進めている「永続地帯」研究の調査結果(2015年))。
- ①大分県(30.1%)
- ②秋田県(21.8%)
- ③富山県(18.8%)
- ④長野県(18.2%)
- ⑤鹿児島県(17.8%)

「鎮守の森・自然エネルギーコミュニティ構想」

- 全国の神社の数 :8万1000ヶ所
お寺の数 :8万6000ヶ所
- 神社やお寺といった存在は、かつて「コミュニティの中心(ないし拠点)」として存在し、経済、教育、祭り、世代間継承などコミュニティの多面的な機能を担っていた。
- こうしたコミュニティにとって「鎮守の森」のもつ意義を、自然エネルギー拠点の整備等と結びつけていくプロジェクト。
- 自然エネルギーという現代的課題と、自然信仰とコミュニティが一体となった伝統文化を結びつけたものとして、日本が世界に対して誇れるビジョンとなりうる可能性。



鎮守の森コミュニティ研究所

Chiniu-no-Mori (Grove of the Village Shrine) Community Research Institute

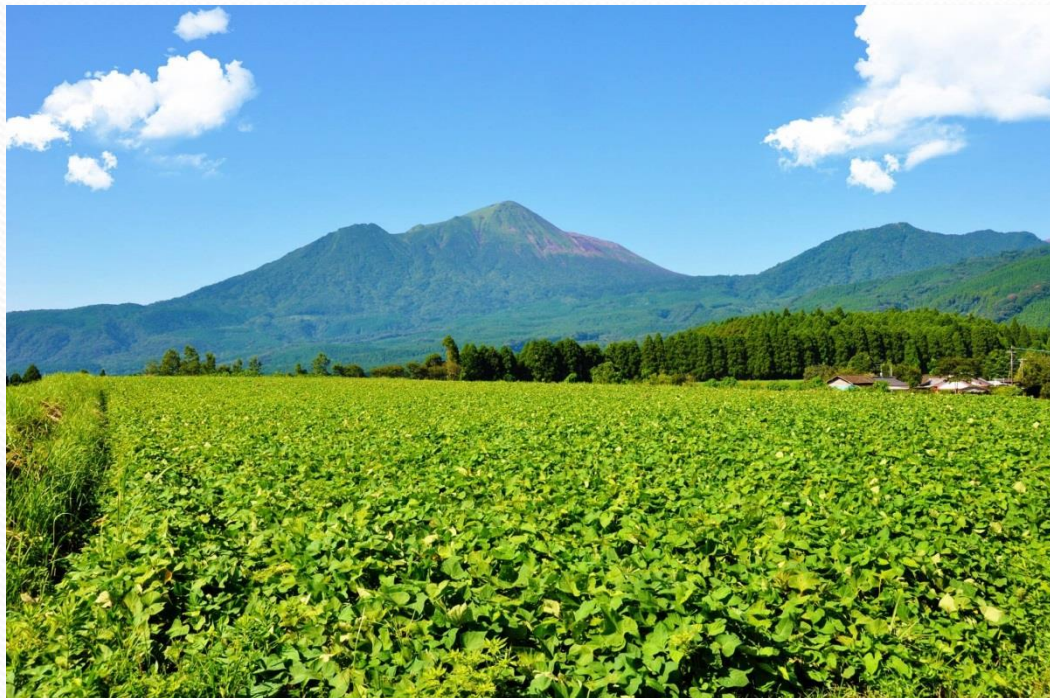
最近のある学生の例



- もともと**グローバル**な問題に関心があり、1年間の予定でスウェーデンに留学していた女子の学生が、“自分は**地元の活性化**に関わっていきたい”という理由で、留学期間を半年に短縮して帰国。
- 彼女の出身地は茨城県の石岡市で、関東三大祭の一つとも言われる“石岡のお祭り”が盛んな場所。→この**祭りの存在こそがその学生の地元に対する愛着**の大きな部分を占めていたという。
- ちなみに「祭りが盛んな地域ほど若者が定着したり**Uターン**する傾向が高い」という指摘あり。

宮崎県・高原町

「神話の里」と自然エネルギー（小水力発電）の融合



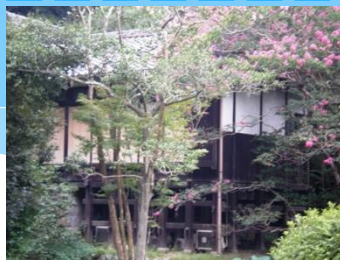
Iターン組の若者が作った一般社団法人「**地球のへそ**」と連携してプロジェクトを推進

狭野神社



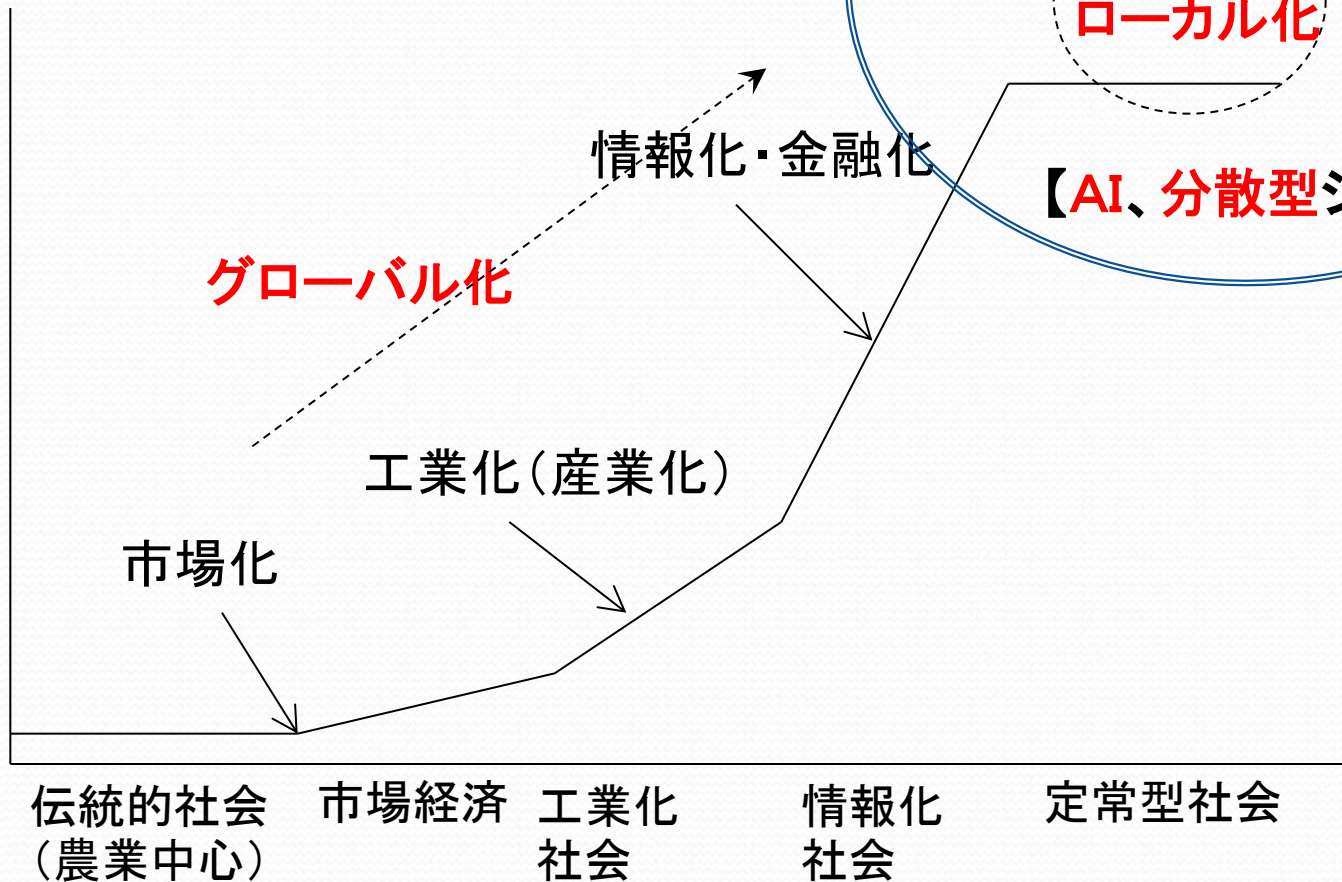
一般財団法人 石清水なつかしい 未来創造事業団

設立趣意書



経済システムの進化と定常型社会 グローバル化の先のローカル化

経済の規模



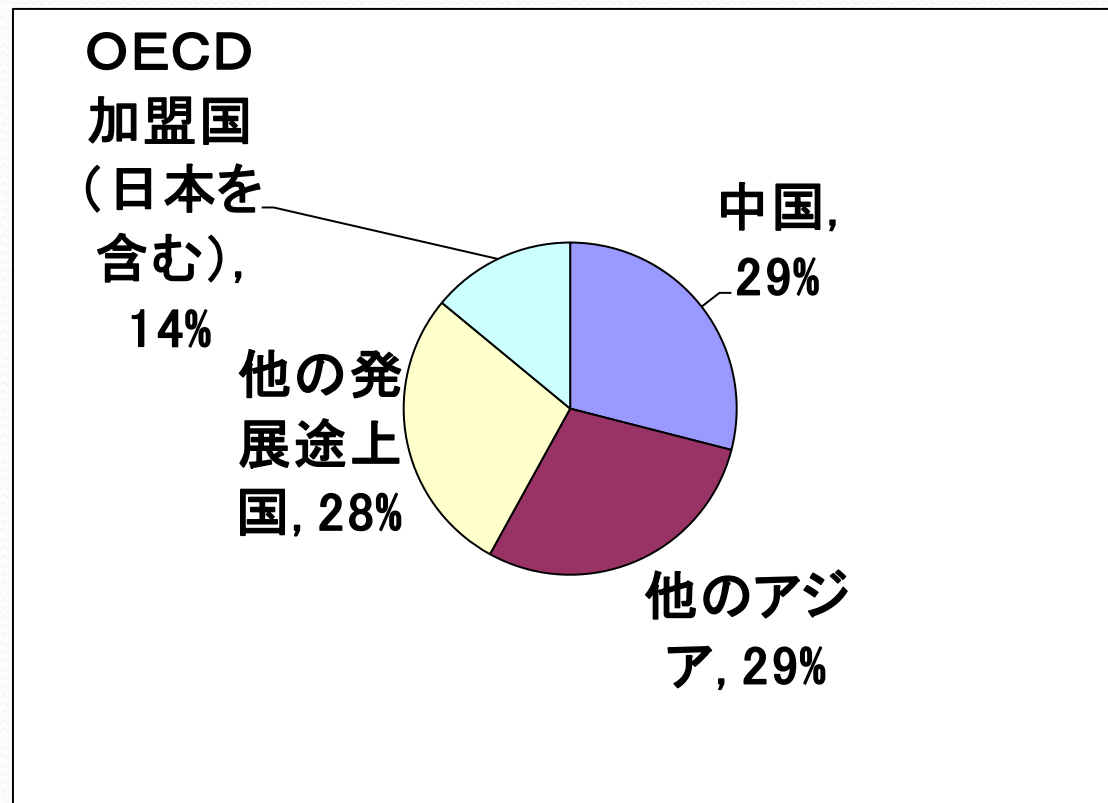
物質の消費 → エネルギーの消費 → 情報の消費 → 時間の消費

おわりに：
グローバル定常型社会の展望

高齢化の地球的進行 “Global Aging”

— 今後はアジアが急速に高齢化 —

2030年までに世界で増加する高齢者(60歳以上)の地域別割合



(World Bank, *Averting the Old Age Crisis*, 1994)

- 「20世紀が人口増加の世紀——世界人口は16億から61億にまで増加した——だったとすれば、21世紀は世界人口の増加の終焉と人口高齢化の世紀となるだろう」

(Lutz et al(2004))

ReAFRICA? : 2100年の世界人口推計

…上位10か国のうち5か国が**アフリカ**諸国(国連人口推計〔2015〕)

1	インド	1660
2	中国	1004
3	ナイジェリア	752
4	米国	450
5	コンゴ	389
6	パキスタン	364
7	インドネシア	314
8	タンザニア	299
9	エチオピア	243
10	ニジェール	209

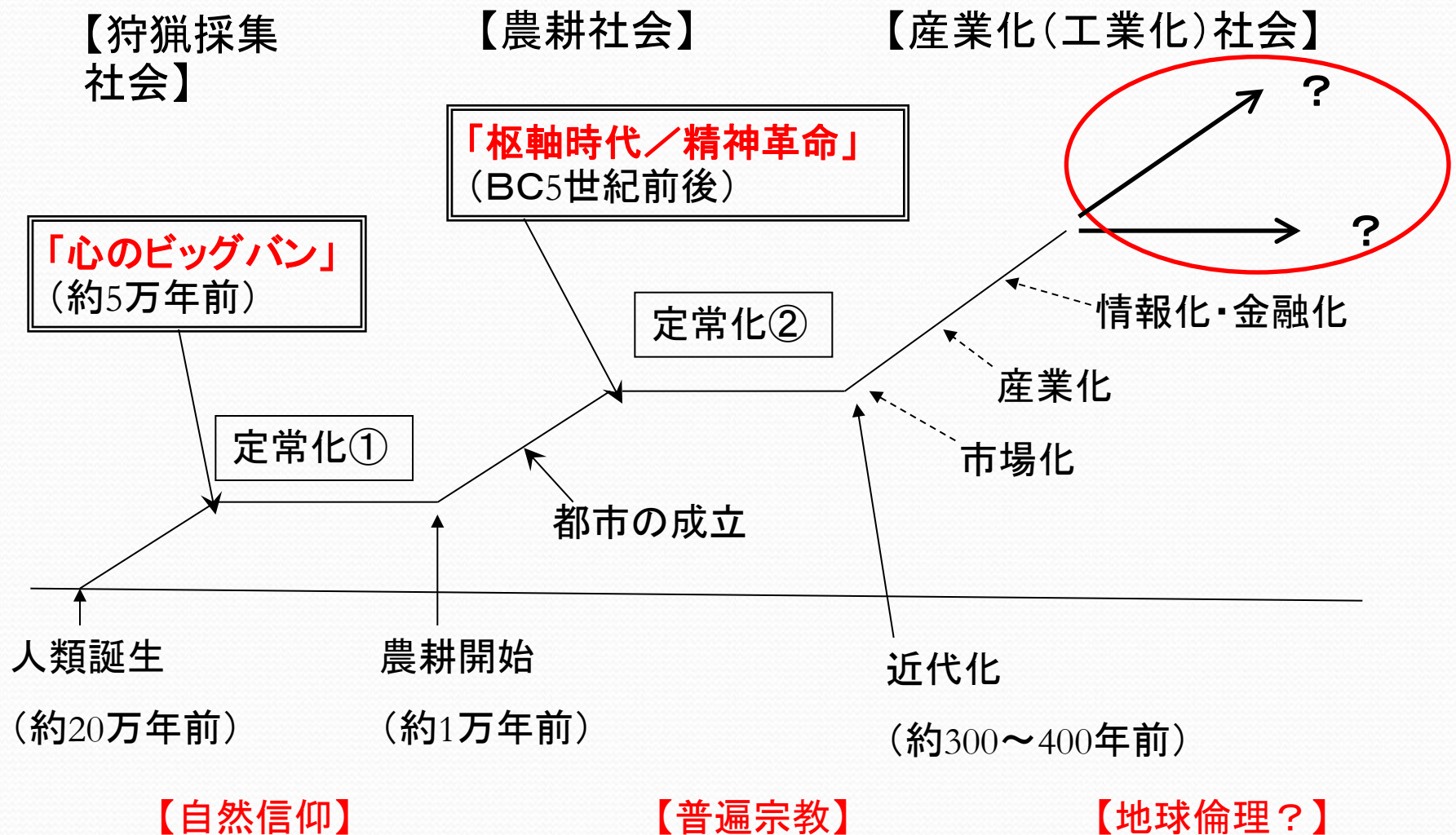
(注) 日本は30位(8300万人)

21世紀後半における 「グローバル定常型社会」の可能性

- 「21世紀後半に向けて世界は、高齡化が高度に進み、人口や資源消費も均衡化するような、ある定常点に向かいつつあるし、またそうならなければ持続可能ではない」

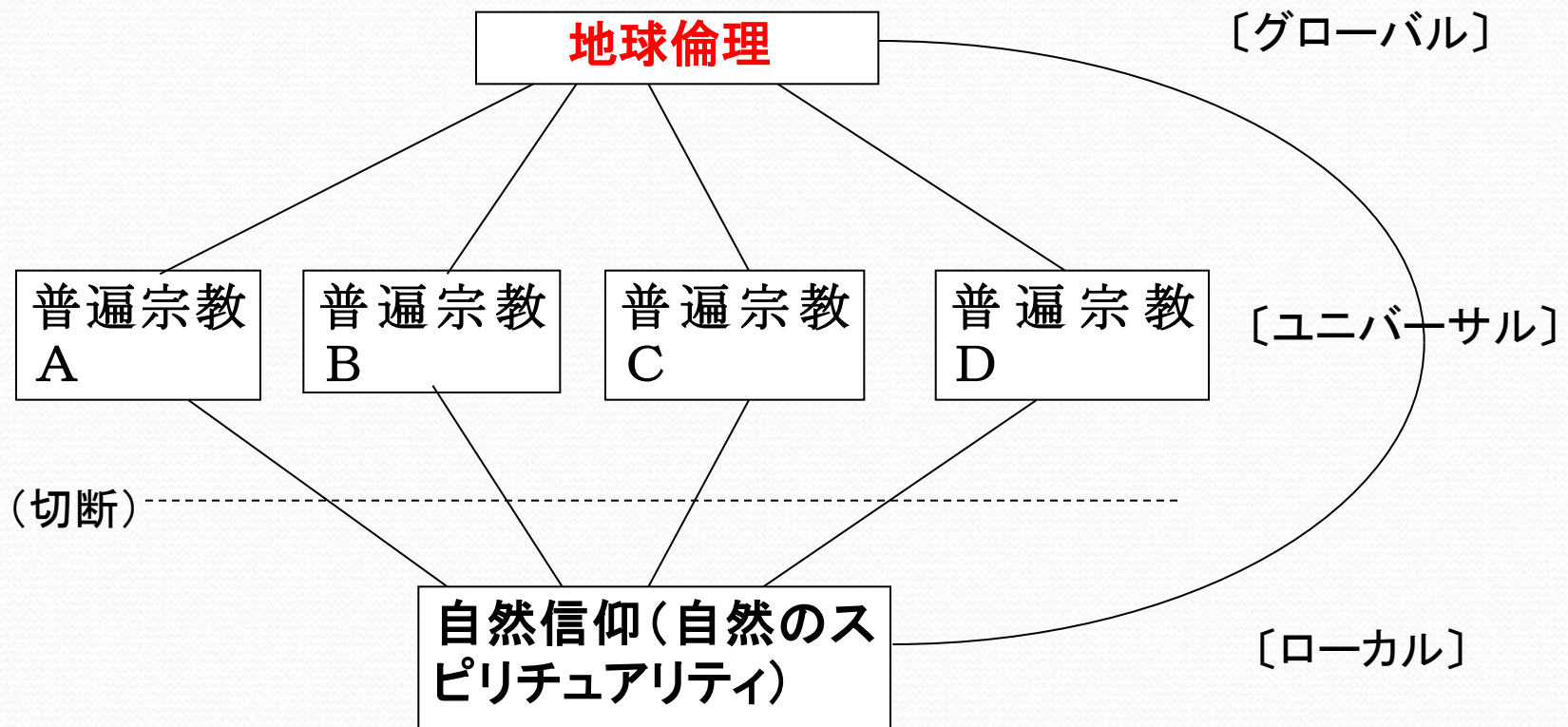
「限りない拡大・成長(スーパー資本主義)」 vs「持続可能な福祉社会(ポスト資本主義)」 の“せめぎ合い”の時代としての現在

人口・経済の規模↑



「地球倫理」の可能性

・・・「第三の定常化の時代」における価値原理として



地球倫理・・・ローカル(個別的・地域的)とユニバーサル(普遍的・宇宙的)を総合化するものとしてのグローバル(多様生成的)

人口減少社会を希望に

- 日本は高齢化・人口減少社会の文字通り**フロントランナー**。
- 多くの課題を抱える一方、
- 相対的に費用対効果の高い形で**長寿**を実現。**鎮守の森**に象徴されるような伝統的な自然信仰が(かろうじて)保存。
- 近代西欧文明とアジア、先進国と途上国をつなぐ位置。
- 環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会/創造的定常型社会」のモデルを先導的に実現、発信していくポジションにあるのではないか。

御清聴ありがとうございました
コメント、質問等歓迎します。

hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

* 関連組織

・鎮守の森コミュニティ研究所

<http://c-chinju.org/>

参考文献

- 伊東俊太郎(2013)『変容の時代——科学・自然・倫理・公共』、麗澤大学出版会。
- 伊藤穰一(2018)『教養としてのテクノロジー——AI, 仮想通貨、ブロックチェーン』、NHK出版新書。
- ウィルキンソン(2009)『格差社会の衝撃——不健康な格差社会を健康にする法』、書籍工房早山。
- 宇都宮浄人(2015)『地域再生の戦略——「交通まちづくり」というアプローチ』、ちくま新書。
- レイ・カーツワイル(2007)『ポスト・ヒューマン誕生』、NHK出版。
- 高松平蔵(2008)『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか』、学芸出版社。
- ユヴァル・ノア・ハラリ(2018)『ホモ・デウス(上)(下)』、河出書房新社。
- 広井良典(1997)『ケアを問いなおす——〈深層の時間〉と高齢化社会』、ちくま新書。
- 同(2001)『死生観を問いなおす』、ちくま新書。
- 同(2001)『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』、岩波新書。
- 同(2009)『グローバル定常型社会——地球社会の理論のために』、岩波書店。
- 同(2011)『創造的福祉社会』、ちくま新書。
- 同(2013)『人口減少社会という希望』、朝日新聞出版。
- 同(2015)『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、岩波新書。
- 同(2018)『持続可能な医療——超高齢化時代の科学・公共性・死生観』、ちくま新書。
- ブルーノ・S・フライ他(2005)『幸福の政治経済学』、ダイヤモンド社。
- リチャード・フロリダ(2008)『クリエイティブ資本論』、ダイヤモンド社。
- 渡辺正峰(2017)『脳の意識、機械の意識』、中公新書。